

本展でとりあげるアートスペース

煥乎堂ギャラリー

〔前橋 1954～2005〕

煥乎堂は、慶長年間(1596-1615)から高崎の中紺屋町で呉服や古着を扱っていた高橋家が、明治初期に創業した書店。県庁の前橋移転に伴い、1883年に本拠地を前橋に移す。高橋清七(1884-1942)は、1921(大正10)年に煥乎堂を株式会社にして経営の近代化を推し進め、30(昭和5)年に入社した磯貝憲佑(1906-1979)は、清七の後を継いだ弟の元吉(1893-1965)を支えて戦後の煥乎堂の要となった。1954年9月、白井晟一設計の新店舗が完成し、2階にギャラリーが設けられた。このギャラリーは、やがて60年に増築された3階へ移動。65年秋に入社した岡田芳保が以後ギャラリーの企画・運営を担当。美術だけでなく音楽コンサートや文学者による文芸講座などが開催され、文化サロンとして機能した。93(平成5)年12月、6階建ての現店舗が新築され、ギャラリーはその4階へ移った。2005年、創業者の高橋家が経営から退き、ギャラリーは閉鎖。

ぐんまアートセンター

〔前橋 1974～1980〕

1960年代、群馬NOMOグループの活動拠点となっていたやまだや画廊の閉廊が決まり、メンバーの藤森勝次が中心となって、作家が自由に使用できるスペースの存続のため、1974年3月に発足。県庁前通りの前橋ビル内のやまだや画廊のスペースを金子英彦から引き継いで「ぐんまアートセンターギャラリー」が開設された。参加作家の会費により運営するという当時としては先駆的な試み。理事長・品田静男。事務局長は、藤森(1974-77年)、内堀進、山田英雄が務めた。会員は年1回、ぐんまアートセンターギャラリーで展覧会を開催することができた。『ぐんまアートセンターニュース』を発行。1980年6月解散。

コンセプトスペース

〔渋川 1982～〕

福田篤夫が中心となり、群馬県渋川市内の10.5畳の長屋式アパートを利用してオープン。「住まうこと、制作すること、展示すること、企画すること」の4つを同一地平で行い、身近な空間から現代の美術状況を考えることを目的に、既成の美術にとらわれない視点で国内外の現代美術作家の個展等を企画している。「渋川現代彫刻トリエンナーレ」(1985～93年)など大規模な国際展も組織。90年代には高崎美術学院内のスペースを使った「コンセプトスペース R2」、現在は渋川の「AIS」も運営する。

アートハウス

〔沼田／高崎／前橋 1987～2001〕

吉田富久一らが発起人となり、1987年11月、沼田市の松井写真館新社屋3階にスタジオ兼ギャラリーを開設。展覧会企画と美術教室を並行して行う。90年、高崎市上中居町の吉田宅アトリエに拠点を移し、アートハウス高崎として再スタート。運営会を構成する会員がそれぞれの企画展・座談会を発案・実施する担当制をとる。96年からは朝日印刷工業が前橋に開設した多目的スペース「ノイエス朝日」を会場に、2000年まで活発な活動を展開。2002年の定例会を最後に活動を休止している。

北関東造形美術館

〔前橋 1992～?〕

1992年、北関東造形美術専門学校が前橋市石関町に新キャンパスを開校した際、85年から学校に併設されていた豊田一男蠟画記念館の活動を発展的に引き継ぐ形で校内に開館。経営者・品田静男の妻、安達真枝が館長を務める。89年から同専門学校で教鞭を執った白川昌生による「場所・群馬」(1993年～)の活動拠点となると共に、積極的に海外の現代美術作家を紹介した。99年、白川が同校を離れて以降は学生作品展などを開催していたが、2002年に閉館となる。同校は2000年、品田静男の死去に伴い専修学校群馬芸術学園と改称、2016年に閉校した。

アートのための場所づくり
一九七〇年代から九〇年代の群馬におけるアートスペース

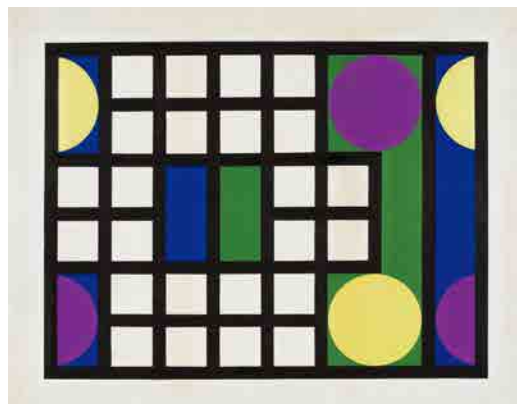
広報用画像 — 出品作品

Hiroatsu Takata
高田博厚



01
高田博厚《美しきエミーⅡ》1963年
セメント、着色 群馬県立近代美術館蔵

Sekikazu Kawauchi
河内世紀一



02
河内世紀一《無題》1977年
油彩・カンヴァス 作家蔵

Koji Enokura
榎倉康二



03
榎倉康二《干渉》1990年
アクリル塗料・カーペット、豚革 個人蔵
[コンセプトスペースでの展示風景]

Fukuichi Yoshida
吉田富久一



04
吉田富久一《Nature's Engineering No.443》1996年
アクリル・和紙、アルミ脚立 作家蔵
[ノイエス朝日での展示風景]

Yoshio Shirakawa
白川昌生



05
白川昌生《赤一彫刻》1987年
オイルパステル、鉛筆・紙 群馬県立近代美術館蔵

広報用画像 — 資料

煥乎堂ギャラリー



A
「第 16 回煥乎堂美術展」案内状
煥乎堂、1976 年

ぐんまアートセンター



C
「ぐんまアートセンターニュース」No.1
ぐんまアートセンター、1975 年

アートハウス



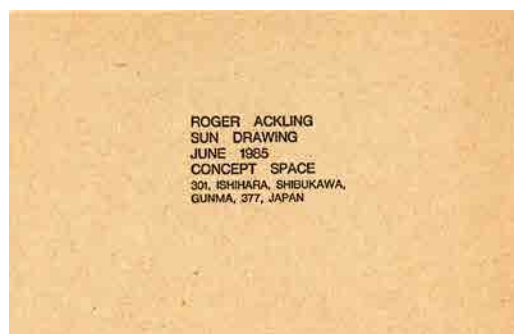
E
「アートハウスの 10 年」展チラシ
アートハウス、1998 年

ぐんまアートセンター



B
「隔屋夢幻の 16 篇のはなの詩による 版画展
— 金子英彦セリグラフィ展」案内状
ぐんまアートセンター、1974 年

コンセプトスペース



D
「ロジャー・アックリング展」案内ハガキ
コンセプトスペース、1985 年

北関東造形美術館



F
「第 2 回場所・群馬」展案内ハガキ
北関東造形美術館、1995 年

アートのための場所づくり

開催概要

展覧会名 | アートのための場所づくり 1970年代から90年代の群馬におけるアートスペース
Making Space for Art Activities; Art Spaces in Gunma from 1970s to 1990s

会期 | 2023年1月21日[土]→4月9日[日]

会場 | 群馬県立近代美術館 展示室1、ギャラリー

休館日 | 毎週月曜日

開館時間 | 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

観覧料 | 一般700(560)円、大高生350(280)円
*()内は20名以上の団体割引料金
*中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は無料

関連イベント | 担当学芸員による連続講座

1 煥平堂ギャラリー	1月29日[日]
2 ぐんまアートセンター	2月11日[土・祝]
3 コンセプトスペース	2月26日[日]
4 アートハウス	3月26日[日]
5 北関東造形美術館	4月9日[日]

14時～15時 2階講堂 定員100名（先着順）[聴講無料・申込不要]

※新型コロナウイルスの感染状況等により開催を中止または内容を変更する場合があります。
最新情報は当館ホームページでご確認いただくか、お問い合わせください。

同時開催 | 群馬 AIR アートプロジェクト 2002 創作展（仮称）
2023年2月21日[火]→26日[日]

お問い合わせ | 群馬県立近代美術館
広報担当 見城 久美子
E-mail kenjyo-kumiko@pref.gunma.lg.jp
370-1293 高崎市綿貫町992-1
Tel. 027-346-5556 / 5560 Fax. 027-346-4064

